これが地方大学の生きる道！

注目の長崎ウエスレヤン大学

その比類なき個性と戦略に迫る

本誌 和泉 貴志

インバウンド観光人材を育成

長崎県諫早市に、小粒でもピリッとした個性を持つ山椒のような大学がある。「長崎ウエスレヤン大学」がそれで、定員580人のこじんまりとした学び舎だ。「共生社会の実現」を教育理念に、外国語学科、経済政策学科、社会福祉学科の3学科を擁する。

「ホワイトハウス」と呼ばれる本校舎

ルーツは古い。母体の鎮西学院は1881（明治14）年の創立で、137年の歴史を誇るミッションスクールだ。「ウエスレヤン」とは、メソジスト派プロテスタント教会の始祖・ジョン・ウエスレー氏にちなんだもの。日本ではあまり聞き慣れないが、「ウエスレヤン」を冠する大学は、コネチカットやオハイオなどの北米の名門大学を始め、世界中に存在する。母体の鎮西学院は、テネシー・ウエスレヤン大学出身の宣教師C・Sロング博士が設立。青山学院大学、明治学院大学と並ぶ歴史だ。

本大学は、2002年に前進の短期大学を改組して開設された。短期大学の頃から、北米はもちろん、中国、韓国、タイ、フィリピンとの交流が盛んで、近年ではマレーシアやベトナム、ネパール、インドなどアジア諸国からも留学生を積極的に受け入れている。

「人口減少・少子高齢化する地方で、『なくてはならない大学』として地元に認識してもらわなければ、未来はない」――。学長である佐藤快信（よしのぶ）氏の、まさに「口癖」だ。企業経営者から「欲しい」と望まれる人材を育成するため、特色あるキャリア教育を実施している。1～3年の必修科目「コミュニティサービスラーニング」では、高齢者・子育て支援を皮切りに、商店街活性化、地場産品を使った商品開発、インバウンド観光など、学生・教職員が共に地域活性化に取り組む授業を用意。「ノーと言える人間は当たり前。うちの大学は、あらゆる課題に『ハイ』と『イエス』で答え、ポジティブに立ち向かえる人財を育てたい」と佐藤学長は力説する。

自身も学生と共に、五島列島の北端にある離島・小値賀島に10年間通い詰め、住民参加型まちづくりの基盤を築いた。

産学官連携にも積極的だ。お膝元の諫早市はもちろん、雲仙温泉観光協会や旅館ホテル組合、長崎県中小企業家同友会などとは包括的まちづくり協定を締結。また、「地域社会・産業界のニーズを理解するにはまずは教員から」とばかりに、専任教員のインターンシップ派遣も構想中だ。

現在、本大学では、文科省の委託事業「長崎発　観光地域づくり人材育成プログラム」を通じて、雲仙・島原半島の観光分野の中核人材育成に産学官連携で挑んでいる。

〝ポスト・オリパラ〟を見据えた地域の経済界では、インバウンド観光を始め、着地型・滞在型観光への転換が地域の経済発展に不可欠だと認

識している。ただし、「長崎県の胃袋」と評される島原半島も、食はもちろん、自然景観、歴史遺産など豊かな地域資源を有するものの、それらの魅力を十二分に活用できているとは言い難いのが実情だ。

こうした地元産業界の期待に添うべく、眠っている地域資源を掘り起こし、新たな旅行商品を開発・マネジメントできる人材を農商工連携で育成するモデルカリキュラムを開発、これに基づく講座を開設した。

受講生は、地元の観光協会を始め、宿泊業、交通・運輸、6次産業事業主など、観光に携わる幅広い分野から募集。リーダーシップ養成講座や、財務会計・マネジメント、マーケティング、プロモーションなど多岐にわたる。ほとんどの講座は、観光業界のトップリーダーや実務家を講師に迎えると共に、他分野で働く受講生同士のネットワークづくりを兼ねたワークショップ形式で進められる。

佐藤快信学長

また、これら講座と並行して、宿泊業の人材育成をターゲットとした「旅館道」も開発。茶道や華道と同様、旅館での接客・接遇も「道」として捉え、「おもてなし」には完成形はなく、常に探し追い求め、自己を高め続ける――。これが神髄だ。「旅館道」はまた、旅館という文化体験をいかに楽しみ尽くすことができるか、宿泊客を喚起する狙いもある。

旅館道の段位は、全四段。初段のスタッフレベルから始まり、師範代であるシニアマネージャーまで、各段位で「おもてなし」のコンピテンシーがカリキュラム化されている。高い動機づけにより、離職防止をも狙っている。なお、この「旅館道」の開発担当である教員は、自らが旅館の女将に頼み込み、住み込みインターンシップを体験したほど。

中国超富裕層との太いパイプ

本大学は「地域になくてはならない大学」として、地元と海外産業界とをつなぐパイプ役としても一役買っている。

今年1月、井川博行副学長を団長とした、県内産学官で構成する「観光経済ミッション」を上海に派遣。最高層セレブビルの上海センターで上海超富裕層との交流会を開催。上海ポルシェクラブ会長、上海フェラーリ協会副主席、アストン・マーチン、BMW、ベンツ、ジャガー、ハーレーダビッドソンなどのディーラーの総裁クラス、ビジネスジェットクラブ会長、クルーザークラブ会長など約60名が出席した。これほどのメンバーが一堂に会すのは上海でも初めてだという。

同イベントの仕掛け人となったのが、上海ポルシェクラブ会長の張志雄氏。井川氏と兄弟の杯を交すほどの昵懇の間柄だ。2人の出会いは、井川氏が約10年前に長崎県観光部門に在任中、地道に人脈開発をする中で知り合ったという。以降10年の歳月が二人を、義兄弟の仲まで育て上げた。

井川氏には、人付き合いで貫いて来た3つのポリシーがある。「利用しない」「相手に何も求めない」「相手には何でもあげる」だ。その結果、このような超富裕層が参集する交流会が実現した。なお井川氏は、中国唯一の超富裕層メディア「胡潤百富」の日本人唯一の顧問でもある。

「東京から遠い田舎の小さい大学ですが、中国超富裕層とのパイプは、間違いなく日本ナンバーワンです」

と誇る井川氏。

少子化で地方大学のサバイバルが「待ったなし」となった今、長崎で〝快気炎〟を挙げる本大学のユニークな取り組みに、教育界はもちろんビジネス会や旅行業界から熱い視線が注がれている。

少人数制は本大学の特色の1つだ